

基本構想

将来像：ひとが輝き 創造し続ける 学園都市・米沢

基本理念：市民が積極的に参加するまちづくり
市民が魅力を感じるまちづくりを推進するために
(人づくりを中心としたまちづくりの推進)

基本目標：1. 挑戦し続ける活力ある産業のまちづくり
2. 郷土をつくる人材が育つ、教育と文化のまちづくり
3. 子育てと健康長寿を支えるまちづくり
4. 自然と都市の魅力が調和し、賑わいと交流を促すまちづくり
5. 安全安心に暮らせるまちづくり
6. 持続可能なまちづくり（協働・行政経営）

【後期5箇年間ににおけるまちづくりの視点について（キーワード）】

※のついた項目は、裏面「用語解説」を参照してください。

現状・課題		視点・必要な取組	関連項目
少子化	未婚化、晩婚化 合計特殊出生率の低下	○結婚、出産支援 ○子育て支援（ <u>屋内遊戯施設</u> ）	
高齢化	平均寿命の延伸 老年人口割合の増加	○健康寿命の延伸（ <u>身体と心の健康、フレイル[※]予防、食生活、運動等</u> ） ○支え合い、自立	
人口減少	労働力人口の減少 東京への一極集中	○市内学生の地元就職促進 ○UIJター [※] 者の就労支援 ○女性や高齢者等の活用 ・誰もが活躍できる地域社会の実現 ○定住人口の拡大 ・本市の魅力向上・発信 — 米沢ブランド戦略の推進 ・地域コミュニティの活性化 — 市民、民間、行政の協働 ○交流人口の拡大 ○関係人口の拡大 ○企業誘致（ <u>災害に強いまちをPR</u> ） ○商業施設の充実	・地方創生 地方への人・資金の流れを強化 ・道の駅米沢 ・東北中央自動車道 ・インバウンド [※]
人づくり	人材の育成	○教育環境の整備（学校教育） ○生涯学習環境の整備（社会教育）	
安全安心	医療体制の整備 災害等への対応	○市立病院建設（三友堂病院との連携強化） ○防災基盤の整備（市庁舎建設）、地域防災力・消防力の強化 ○その他 — 空家・空地対策、雪対策	
産業振興	担い手不足 産業構造の変化	○商工業、農業の事業承継 ○消費者志向の変化 ○高速交通網の整備による流通促進	
自然環境	自然環境の保護・整備	○森林環境の整備	
地域経済の変化	グローバル化 働き方の変化 情報化社会の進展	○地域経済の活性化 — 大学との連携（学園都市） ○ワークライフバランス [※] の確保 ○Society5.0 [※] の実現（AI、IoT [※] など）	・山形大学有機材料システム事業創出センター ・テレワーク [※]
持続可能なまちづくり	人口減少	○コンパクトなまちづくり — 都市計画マスタープラン、立地適正化計画 <u>○公共交通 — 地域公共交通網形成計画</u> ○行政サービスの効率化・選択と集中 ○民間資本の活用 ○近隣市町との連携 — 置賜定住自立圏構想、福島圏域との連携	・SDGs [※]

【用語解説】

IoT :
「Internet of Things」の略で「モノのインターネット」といわれる。自動車、家電、ロボット、施設などあらゆるモノがインターネットにつながり、情報のやり取りをすることでモノのデータ化やそれに基づく自動化等が進展し、新たな付加価値を生み出すことをコンセプトとする。

SDGs :
「Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)」の略称。持続可能な開発のための17のグローバル目標と169のターゲットからなる国連の開発目標。2015年9月の国連総会で採択された『我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ』と題する成果文書で示された2030年に向けた具体的行動指針。

Society (ソサエティ) 5.0 :
内閣府の第5期科学技術基本計画において、我が国が目指すべき未来社会の姿として提唱されたもの。これまでの狩猟社会(Society 1.0)、農耕社会(Society 2.0)、工業社会(Society 3.0)、情報社会(Society 4.0)に続く、「サイバー空間(仮想空間)とフィジカル空間(現実空間)を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会(Society)」とされる。AIやIoT、自動運転技術などの新たな技術を使って、少子高齢化や人手不足など、今の日本が抱える社会課題を解決することを目指すもの。

UIターン :
地方部に居住していた人で、就職等により都市部に定住した人が、また元の地方部に戻って定住することを「Uターン」、別の地方部に定住することを「Jターン」、もともと都市部に居住していた人が地方部に定住することを「Iターン」という。

インバウンド :
一般的には訪日外国人旅行を指す。これに対して海外旅行はアウトバウンドという。

コミュニティビジネス :
地域の課題を地域住民が主体的にビジネスの手法を用いて解決する取組のこと。

テレワーク :
情報通信技術を活用した、場所や時間にとらわれない柔軟な働き方。働く場所によって、在宅勤務、モバイルワーク、サテライトオフィス勤務の3つに分けられる。

フレイル :
「加齢に伴う予備能力低下のため、ストレスに対する回復力が低下した状態」を表す「frailty」の日本語訳として日本老年医学会が提唱した用語。要介護状態に至る前段階として位置付けられるが、身体的脆弱性のみならず精神心理的脆弱性や社会的脆弱性などの多面的な問題を抱えやすく、自立障害や死亡を含む健康障害を招きやすいハイリスク状態を意味する。

ワークライフバランス :
働くすべての人々が、「仕事」と育児や介護、趣味や学習、休養、地域活動といった「仕事以外の生活」との調和をとり、その両方を充実させる働き方・生き方のこと。